

子宮頸がんの HPV ワクチンは 2 種類ありますがどちらが良いのでしょうか？

結論から申し上げます、**どちらも良いワクチンであり現時点では大きな差はない**と思います。

子宮頸がんを予防すると言われているヒトパピローマワクチン(HPV ワクチン)には**4価ワクチンのガーダシル®**(MSD 社が開発)と、**2価ワクチンのサーバリックス®**(グラクソスミスクライン社が開発)の 2 種類ありますが、どちらのワクチンも子宮頸がんの原因とされるヒトパピローマウイルス感染症を推定20年以上予防し、年間 1 万人以上発症する子宮頸がんを 70~80%程度予防すると予測され、発売以来高い安全性も確認されています。

ヒトパピローマウイルスには 150 種類以上の型がありますが、4価ワクチンのガーダシルはこのうち 16 型、18 型、6 型、11 型の 4 種類の感染症を予防し、2価ワクチンのサーバリックスは 16 型、18 型の2種類の感染症を予防します。(子宮頸がんの原因ウイルスは、多いものから順にヒトパピローマウイルスの 16 型、18 型があり、この両方で頸がんの原因の 70%を占めるとされます。)

4種類と2種類なので、ガーダシルの方がすぐれたワクチンかといいますと、簡単にそうとはいえません。

子宮頸がんの原因とされている型はガーダシルが対応している4種類のうち 16 型、18 型だけです。6 型、11 型は子宮頸がんの原因ウイルスではなく、外陰部にできるイボ(尖圭コンジローマ)の原因ウイルスです。従って、子宮頸がんの予防という観点から見ると両ワクチンとも同じ 16 型と 18 型だけの予防になります。

しかも、サーバリックスの方が 16 型、18 型のウイルスに対する抗体上昇が優れているので、子宮頸がんの予防だけを考えた場合、両者はほぼ同等か場合によってはサーバリックスの方が優れている可能性もあります。(サーバリックスでは抗体価がより高くなる為、16 型や 18 型ウイルス類縁の 31 型、33 型、45 型のウイルスを交差免疫の力で予防する力がより強く、将来的にわずかですがその差が出る可能性もあります。)しかし、両ワクチンとも開発後の歴史が短い為、実際に頸がんを予防したというデータがありません。(頸がんの原因ウイルスの感染予防と、前がん状態の予防効果までは優れたデータが確認されています。)ウイルス感染からがん発症まで時間がかかる為、明確ながん予防のデータが出るのはおそらくあと数年~十数年かかるかもしれません。従って、どちらのワクチンが真に優れているか結論がでていないというのが現状です。

子宮頸がん予防で最も重要な事はワクチン同士の比較ではなく、**20 歳以上になったら子宮頸がん検診を婦人科で定期的実施していただき早期発見すること**であり、どちらかのワクチンと頸がん検診を組み合わせることで大半の頸がんを予防あるいは早期発見できるだろうと考えられています。(ワクチンだけでは 16 型、18 型以外の型の感染を十分に防げず、結果的に頸がん全体の 70~80%しか予防できないとされます。)

4価ワクチンでも、2価ワクチンでもその後の定期健診を確実に受診すれば、十分予防あるいは早期発見ができると期待される事、良性疾患とはいえ尖圭コンジローマの発生頻度はとても多く、国内で四万人(女性は 2 万人)の方が苦しんでおられる事、将来母体の尖圭コンジローマが原因で乳児に若年性再発性呼吸器乳頭腫症という難治疾患をきたす可能性があること等を考慮し、当院では主にガーダシルを採用していますが、サーバリックスにも抗体上昇が優れているという利点がありますので、ご希望の方には2価ワクチンのサーバリックスを提供することも可能です。接種年齢が高い方(18 歳以上など)は一般的に抗体上昇が良くないため、少しでも抗体上昇の良いサーバリックスをお奨めする場合があります。2価ワクチンをご希望の方は事前にご相談下さい。